

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100148		
法人名	株式会社 優華		
事業所名	優華グループホーム戸次の里		
所在地	大分県大分市中戸次4287番地		
自己評価作成日	平成25年7月15日	評価結果市町村受理日	平成25年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=4490100148-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=">https://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=4490100148-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府吉番館 1F		
訪問調査日	平成25年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅に位置しており、近くに小学校があり、チャイムの音や子供の声がよく聞こえる。平屋建てで天井が高く、天窗があり陽がよく入る。家庭的であることを基本理念とし、個々の生活歴やベースに合わせたケアを心がけている。月1回の勉強会も継続して行い、知識・技術の向上とともに、まずは入居者のみなさんが「親だったら・・・自分だったら・・・」と考えるようにしている。介護計画の充実に取り組み、職員が統一したケアで、入居者の状態変化に対応できるように努めている。職員の離職率も低く、日頃より、入居者との関係はもとより、ご家族とのコミュニケーションを心がけている。入居者が、戸次の里で最後まで過ごして頂けることに感謝し、最後の時間をご家族と一喜一憂し、その中で、職員ひとりひとりが色々なこと感じ、学ばせている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに小学校や公園がある閑静な住宅街の中にある2ユニットのグループホームです。地域密着型サービスの役割を十分理解し、利用者が社会参加できるよう、地域の行事にも積極的に参加するなど、事業所は地域との繋がりを重視しております。その中で地域交流は着実に拡がりつつあるが、現状に満足することなく、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担うことを通して連携が更に深まるよう取り組みを強化しています。サービス面では利用者、家族の思いを尊重し「自分の親だったら」を常に考えた支援に取り組んでいます。また、職員の技術力の向上、サービスの質の向上に向け、研修会、勉強会を職員自ら率先して行い、日々努力を重ねることがサービスに活かされており、家族の信頼関係の構築に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎朝唱和している。各ユニット玄関にも掲示し、来訪者にも知って頂けるようにしている。会議時に、理念を1項目ずつ取り上げて話し合い、職員ひとりひとりが、深く理解できるように取り組んだ。	管理者の看護体験から得られた、事業所理念は、管理者、職員に浸透し、共有されています。新任研修や、会議等の場で話し合い、理念に基づいた「家庭的な介護」が実践できています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩時に、挨拶をかわす。小、中学生もよく声をかけてくれる。地区の春祭りでは、御神輿も立ち寄ってくださる。	事業所として町内会の会員になっており、盆踊り、春祭りの参加、事業所の行事に近隣の方々を招待したり、野菜の差し入れがあったりと地域に根差した交流を行っています。馴染みの方や近隣の方が訪ねて来やすい雰囲気作りにも努めています。	理念にある「地域交流」を基本として、地域との交流が更に深まり事業所と地域の人々が互いに支え合えるような双方間関係が築かれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	25年5月に、戸次地区の高齢者大学の講座で、認知症の症状と、介護保険の施設の種類の、認知症の介護方法を事例をあげながら講演し、当ホームの設立経緯や理念、役割を紹介させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員が出席しやすい日時等、聞きながら開催日時を決定しているが、欠席者が多かったり、開催が延期されたりしている。委員との、日頃からの関係作りに取り組まなければならない。	家族代表、地域代表、行政職員、地域包括職員等の参加を得て会議が開催されています。事業所の取り組み内容の報告、参加メンバーから質問や課題に対する意見、要望を受ける双方間的な会議となるよう心掛けており、サービスの向上に具体的に活かすよう努めています。	委員との関係作りを課題に上げられています。会議の時だけでなく、案内の配布も手紙ではなく、訪問して話す、民生委員の会議に出席しホームの説明を行う等、交流を深めることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	請求業務等、書類で確認後、不明な点は電話で担当者から助言をもらっている。開所時からの担当者とは関わりが長く、相談もしやすい。	利用者の認定更新時等に市に出向いた際に担当者で面談する機会を持っています。困難事例の相談やアドバイスを頂いたり、防災について市から説明を受ける等、行政との関係も築けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まず、「自分の親だったら・・・自分だったら・・・」と考えると、身体拘束という対応は出てこない。終末期、不穏で体動が著しく激しい方へ、ベッド柵を片側に2本使用することがあったが、ご家族と話し合い、説明と同意書を頂いた。	年1回身体拘束、虐待の勉強会を開き、事例をあげ対応策を話し合う中で「自分の親だったら・・・」を考え、答えを出しています。玄関にもチャイム・センサーはなく、利用者が束縛のない生活を送るために職員の見守りと連携で対応を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会でテーマにあげ、職員全員で考える機会を設けた。また、ニュースで取り上げられていたことは、他人事と思わず、その都度、申し送りを利用して、入居者、家族、介護者の気持ちを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを置いている。現在、利用している入居者はいないが、それぞれの家族状況を把握し、相談に応じられるようにしている。また、入居希望者からの相談の場合は、関係機関と相談するようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、見学をしていただいている。時間をつくり、ご家族へ重要事項説明書と契約書の説明を行っている。説明後、一度持ち帰って頂き、理解、納得して頂いた後、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の希望、要望は日常会話の中から、汲み取れるように努めている。ご家族来所時には、職員から積極的に声をかけ、人間関係を構築し、少しでもご家族が、不満や要望を表現しやすい雰囲気作りに努めている。	面会時や、支払いの為の来訪時に直接聞き取りをしています。家族会、運営推進会議は意見、要望を外部者へ表せる機会であり、出された意見を事業所は運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は運営状況、決算報告をグラフでわかりやすく、職員へ報告した上で、職員からの意見や提案を聴いている。全体会議、ユニット会議でも、職員からのアイデアや行事計画があげられる。	日々のケアの実践を通しての職員各自の気付きや、アイデア等は全体会、ユニット会議に図られ、ケアの充実に繋げています。また、個人面談を通じて意見、要望を把握する中で、休憩時間の取りかたなどを提案し、働きやすい職場作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務時間、給与を把握している。理念にもあるように、介護者が楽しくゆとりのある生活ができるよう、環境整備に努めている。敷地内の自動販売機の設置に、職員は喜んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、自己目標、達成度、反省を記入し、個人面談を行っている。代表者は、個々の能力に合った次のステップに取り組めるような、アプローチを行い、職員個々がモチベーションをもって働いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、他事業所職員との交流ができ、その時に、各施設の様子が聴けている。また、グループホーム連絡会主催の他施設見学に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談し、ある程度の情報は職員が共有できるようにしている。入居直後は、環境が変わることの本人の不安に、少しでも寄り添えるよう、積極的に声をかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に、戸次の里でどのようにしてもらいたいのか、ご家族の不安なことはないか、などゆっくり話ができる時間を設けている。また、ご家族の不安を軽減できるための、具体的な対応方法を、一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	戸次の里の体制を、客観的に見極め、ご本人とご家族が必要としているサービスを利用できるように、関係機関と相談し、医療ケアや、医療と連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の残存機能を把握し、炊事、洗濯、掃除を一緒に行っている。入居者へ感謝の言葉を伝える。時には職員が入居者へ人生相談をし、励まされる。入居者、職員が共に生活し、みんなで、年を重ねていることが実感できる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の「心の支え」は、ご家族でなければ職員では代わりができないことを、日頃よりご家族に伝えている。面会も多く、バス旅行や、餅つき等行事への参加・協力も得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩中に、友人の家を訪ねたり、子供の頃通っていた小学校へ立ち寄りしている。	利用者の生活歴や家族からの情報を基に、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に繋がっています。また、家族の協力を得て帰宅も実施されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活から人間関係を把握し、テーブルの座席や、ホールで過すときの位置に配慮している。関係良好な方同士は、衣類のボタンを留めてあげたり、自然と支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先へ、生活の様子や、身体状況、服薬等の詳細な情報提供を行った。また、転居の際のご家族の行うべき手続きを、事前にお知らせできた。みとり退居された方のご家族とは、今も交流があり行事などに参加して下さる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちや希望を聴き、できるだけその希望に近づけるよう支援している。何事も、ご本人の意向はどうか、職員の都合で行っていないかを、職員一人ひとりが考える力をつけるよう努めている。	日々の生活から、言葉による把握だけでなく表情や態度によっても把握できるよう努めています。相手の立場になり、思いやりを持って支援することで利用者の思いや希望をより丁寧に汲みあげるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴を聴き、暮らしの継続ができるように努めている。生活ペース、習慣、嗜好を、大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自力で動くことが困難な方は、1日のスケジュールをたてている。その日その日で、ご本人の気持ちや体調に合わせて、身体を動かせるように支援したり、介助方法を変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、本人からの意向を汲み取り、身体状況変化があればすぐに介護計画にあげている。家族への報告し、要望を伺い、医療からの助言も得て、毎月ユニット会議で話し合う機会もある。	利用者及び家族、担当職員の意見やアイデアを反映して介護計画が作成されています。利用者に何らかの変化が生じた場合も同様に対応し、変更した場合は介護計画書に一週間付箋を貼り、情報を共有しケア統一を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別ケア記録を記入している。介護者それぞれが行ったケアと入居者の様子を記録し、情報共有できている。よい結果が得られたケア方法については、他職員も取り入れられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接のグループハウスで過ごしたり、協働して行事やレクリエーション支援が行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民の訪問、交流、差し入れあり。戸次の里のことを広く知っていただくことで、地域住民も気にかけてくれるようになった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医について十分に家族と協議している。かかりつけ医へは、日常生活の様子や身体状況の変化を的確に伝えるようにしている。また、次回の受診前に、急な変化があれば、ご家族、かかりつけ医へ連絡をしている。	本人や家族の希望に添った専門医療機関との連携が保たれています。定期健診の結果は、家族へ報告(コピー譲渡・必要に応じた医師との面談時の日時設定)により共有が図られています。家族同伴での受診を基本としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、介護職へ身体の観察方法・項目・ポイントを助言し、介護職が気付いたことをすぐに看護師へ報告できている。訪問看護師は開所当時から関わりであり、相談しやすい。看護師、訪問看護師と主治医の連絡も密に取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院訪問、家族への様子伺いの連絡を行い、MSWとも連絡を密に取るようにしている。入院先の病院や協力病院へ、戸次の里の医療との連携の体制を説明し、入院治療が終了すれば退院できるように配慮していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「みどりの指針」について説明している。終末期をどう過したいか、どう過してもらいたいかを、ご家族に考えて頂けるよう、家族会や面会時に話をしている。みどりの契約後は、家族、主治医、看護師、介護職との会議をもち、介護計画をたて、チームケアが行えている。	理念に表記されており、終末期ケアの方針や取り組みについて「看取り指針」に基づき、入所時に説明が行われています。指針において、家族・医療・施設等(利用者を取り巻く人々)のチーム間の協力関係づくりを看取りケアの基本とし、その環境の中で積極的な支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で「緊急時の対応」をテーマとし、看護師の指導の下、実技を交えながら学ぶ機会を設けている。何度も繰り返し学び、実践力につながるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者も参加して、主に夜間想定での避難訓練を行っている。緊急連絡網を利用した、抜き打ちでの通報訓練も行っている。	夜間想定での避難訓練では職員の見守りの中で、担当者を変更しながら、利用者の安全な避難へ向けた実地訓練に取り組んでおり、課題の見直し等も行われています。運営推進会議を活用しての、今後の改善対策の検討にも努めています。	更なる職員研修と地域への施設の理解に向けた前進的な取り組み、迅速で安全な避難に繋がる地域間相互の協力体制づくりを希望します。自然災害を視野に含めた、地域との連携による体制づくりへの取り組みに期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気の中でも、相手は人生の大先輩であることを念頭に置いている。言葉だけでなく、口調、声量にも配慮している。入浴・排泄介助時には、ドア、カーテンの使用を徹底している。	「もし 自分の親だったら」の姿勢を行動の糧に、日常の支援に繋げています。内部研修では職員が交代で講師となり、羞恥心・個人の尊厳等における詳細(おむつ交換への配慮・言葉の大切さ)に着目するなど、資質向上に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の自発的行動は特に大切にしている。衣類、おやつ、飲み物など、実物を見て頂いて選びやすい環境を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ日中に活動し、夜間はぐっすり眠れるよう配慮して支援するが、個々の生活ペースを把握し、その日の体調や気分、表情を観察しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った、ご本人の好みの衣服をご家族に準備して頂いている。自力で身だしなみを整えることが困難な方へは、声をかけながら支援している。鏡の前で、整髪したり、選んでいただいたヘアピンを留める支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握している。包丁やピーラーを使用し、野菜の皮むきや下ごしらえを一緒に行っている。職員は、入居者と同じテーブルで一緒に食事をする。テーブル拭きや、食器・お盆を拭くことも一緒に行っている。	週毎に献立を作成しています。地域の商店(野菜屋)への献立表の提示により、購入時のアドバイスを受けたたり、また、地域交流にも繋げています。個性(嗜好)の把握と現状に着目しながら「食べたくなる気持ち」への配慮に努めています。	職員と共に食卓を囲み、家庭的な雰囲気や支援している様子が伺えます。個々の利用者の体型や姿勢にマッチした、食べ易さの工夫(配膳台の高さ調整等)、個別環境設定への配慮に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態で準備し、毎食の食事摂取量を記録している。経営栄養の方も、気温に応じて水分量を変更している。食事摂取量の少ない場合は、好みの物、食べやすい物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行えるように支援している。口腔ケアスポンジ、歯ブラシなど、個々に合ったものを準備している。義歯の方は、毎晩、義歯洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄物と時間を記録し、個々の排泄パターンを把握できるようにしている。また、トイレ誘導時に排泄がなければ、時間をみて再度誘導する。言葉で尿意・便意を伝えられない方の、行動で示すサインを見逃さないように努めている。	個々の排泄パターンやトイレサイン(本人の行動やしぐさで察知)等を大切にする中で、個人に応じた声かけに留意しながら、負担を与えない誘導に取り組んでいます。トイレでの排泄を支持しており「座って排泄」の支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤を使用せずに排便につながるよう、適度な運動と水分摂取を促し、便秘予防に努めている。看護師は介護職員へ、排便の重要性・身体の構造について助言し、介護職員も理解を深めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴できるようにしている。ある程度、予定をたてているが、その日の体調や気分により変更している。個々の好みのシャンプーや石鹸、温度や湯船に浸かる時間を、十分に配慮している。	利用者の体調や状態を配慮した自然な支援を心がけており、言葉かけのタイミングを図りながらの誘導や個人のペース(好み)に合わせた入浴支援など、楽しく入浴できる雰囲気作りに取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や、体調、気分を観察しながら、日中に気持ちよく活動し、夜、ぐっすり眠れるように支援している。寝具、パジャマの清潔へ配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能効果、注意点が書かれた用紙は薬箱と一緒に保管し、職員が管理、内服介助している。服薬変更があった場合は、観察すべき項目を全職員が理解できるよう、申し送り時に1週間申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族、ご本人から生活歴を伺い、個々の得意な事、好きな事を把握し、できる事を意欲をもって行えるよう支援している。戸次の里での生活の中でも、新たな一面も見出せるような環境を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションとして計画的に散歩に出かける場合もあるが、個々のその日の気分や体調で、20～30分程度、希望時に近くの公園やコンビニエンスストアへ散歩に行くことが多い。5月に、ご家族とアフリカンサファリへバス旅行に行った。	近隣の公園へのレク外出(飲み物・お菓子持参)や隣接した法人内施設とのお茶会(外気浴)が行われており、地域との交流や法人内資源の活用が行われています。買い物支援として、地区内のコンビニ・施設前の自動販売機(飲み物)を活用しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、自動販売機やコンビニエンスストアでご本人がお金を払い、買い物を楽しんでいる。所持金と購入額を一緒に確認する支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時に、ご家族への電話連絡支援を行なっている。郵便物が届いた場合は、送り主、内容をご本人にわかりやすく音読する支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関にソファ、椅子を置き、好きな時に好きな場所で過ごせる環境づくりをしている。カレンダーや花を飾り、季節感を感じられるようにしている。全職員で施設内の「におい」に敏感になるよう、取り組んでいる。	個々の利用者が集う「家」づくりの支援において、先ず「におい」に着目しています。汚物の処理、換気などの環境面への配慮が行われています。個々の思いの尊重、日常的なユニット間交流、季節の行事開催など、職員と共に暮らせる空間としての居間作りに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを準備し、少人数で過ごせる場所がある。また、窓から外を眺めていれば、そこに椅子を持っていったり、隣のユニットで過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、家具類の使用が、ご本人にとって少しでも居心地が良くなる環境作りになることをご家族に説明し、持込をお願いしている。臭いのもととなるポータブルトイレは使用せず、トイレでの排泄支援を行っている。	家族の思いを大切に、利用者の動向を配慮した家具の配置に取り組む中で、担当職員の思いがプラスされた居室づくりへの配慮の様子が伺えます。職員間のチームワークの中で、心地よく安全に過ごせる居室づくりが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室は、入居者の動きをみて、必要だと思われる箇所に手すりをつけ、その手すりを利用することで、ご本人のできることが増えた。		